

第1回石川県食文化推進本部会議 議事録

(開催要領)

1. 日時：令和5年4月28日(金) 16:00~16:40
2. 場所：行政庁舎11階 1110会議室
3. 出席者：

(1) 本部員

本部長	徳田博	副知事
本部長代理	内田滋一	商工労働部長
本部員	澁谷弘一	総務部長
〃	光永祐子	企画振興部長
〃	酒井雅洋	県民文化スポーツ部長
〃	竹内政則	観光戦略推進部長
〃	竹沢淳一	農林水産部長
〃	北野喜樹	教育長(吉田雅英教育次長が代理出席)

(2) オブザーバー

文化庁	高田行紀	食文化推進本部事務局長
-----	------	-------------

金沢市	鳥倉俊雄	経済局長
七尾市	松崎健	産業部長
小松市	山崎由裕	経済環境部長
輪島市	永井一成	産業部長
珠洲市	濱野良夫	芸術文化室長、田中薫 観光交流課長
加賀市	永田祥二	産業振興部長
羽咋市	前田剛克	産業建設部長
かほく市	千田聡	地域政策部長
白山市	西村一美	観光課長
能美市	谷田直樹	産業交流部長
野々市市	浅野昇	地域政策部長
川北町	中田利明	産業経済課長
津幡町	本多延吉	産業建設部長
内灘町	宮本義治	都市整備部長
志賀町	福田秀勝	商工観光課長
宝達志水町	守田幸浩	商工観光課長
中能登町	岩田正	企画課長

穴水町 中瀬 寿人 観光交流課長  
能登町 眞智 富子 教育長  
※一部代理出席有

(次第)

1. 開 会
2. 本部長挨拶
3. 文化庁の動向説明
4. 本会議の概要説明
5. 各本部員からの関係施策説明
6. 金沢市からの説明
7. 意見交換
8. 閉 会

(配付資料)

- 資料1 石川県食文化推進本部設置要綱  
資料2 石川県食文化推進本部名簿  
資料3 文化庁説明資料  
資料4 石川県の食文化に関する施策  
資料5 各部局の関係施策資料  
資料6 金沢市説明資料
-

1. 開会
2. 本部長挨拶
3. 文化庁の動向説明  
(文化庁高田食文化推進本部事務局長から資料3に基づき説明)
4. 本会議の概要説明  
(内田本部長代理から資料4に基づき説明)
5. 各本部員からの関係施策説明  
(各本部員から資料5に基づき説明)

<資料以外の発言>

【澁谷総務部長】

- ・ 予算の観点から、部局間の連携による相乗効果で、より事業効果を高めていくことが必要。
- ・ 部局横断で施策の検討を進めるとともに、食文化推進本部として、一貫したストーリーで打ち出すということも必要。

6. 金沢市からの説明  
(金沢市鳥倉経済局長から資料6に基づき説明)

<金沢市以外の市町からの発言>

【輪島市永井産業部長】

- ・ 輪島市の食文化振興に係る取組は、大きく分けて、食文化を活かした産業の振興と、食文化による地域づくりの2つを目指して行っている。
- ・ 食文化を活かした産業の振興では、輪島の食材をブランド化する機運が高まったことから、官民連携で団体を立ち上げている。第一弾として輪島の港で水揚げされる天然ふぐのブランド化を進めており、三大都市圏の大手飲食店とのタイアップや、情報発信の強化などにより、フグの出荷量は取組前と比べて4倍近くまで伸びている。
- ・ 食文化による地域づくりとして、市内の児童・園児・生徒が、能登の海女取りサザエや香箱ガニ、輪島フグなどの輪島でとれる食材を幼少期から学ぶ機会を創出するような取組を行っている。

- ・今後、県や各市町との連携を深めて、食文化の振興に取り組んでいきたい。

【能美市谷田産業交流部長】

- ・能美市は、GI 産品である加賀丸いもや、石川県の特別栽培農産物に認証されている国造ゆずが特産物で、これらの食材を利用した食文化が地域に根差している。また、収穫を祝う秋祭りの頃には、各家庭で、1つ1つ笹でくるむ押し寿司がつくられてきた。
- ・これらの食を盛り付ける器である、伝統工芸の九谷焼と併せ、食文化、文化観光の推進を図っていきたいと考えている。

7. 意見交換

【内田商工労働部長】

- ・各部局等からそれぞれこれまでの取組について説明があったが、当部としても今回の本部設置を機に、新しいことに取り組んでいきたいとの決意を新たにした。
- ・まだアイデアベースではあるが、和食について学びたい海外の方がいるという話を聞いたことがあり、単に交流だけでなく、和食の料理人になるために学びたいという方の受け入れについて考えられるし、また、石川県にはそれを実施する力があるのではないかと感じている。今までは、プロの料理人との交流がメインだったかと思うが、これから学びたいという方の受け入れなどもありうると思っている。
- ・もちろん今後の検討であるが、新しいことをいろいろと行っていきたいと思っている。

【酒井県民文化スポーツ部長】

- ・今年秋には百万石文化祭、その半年後には新幹線県内全線開業があり、確実に観光客が増えることが見込まれる中で、食は石川の魅力をアピールでき、「行ってみたい」と思える資源だと思う。
- ・各部局で、様々な取組をそれぞれの観点で行ってきているが、推進本部ができたので、連携してイベントや取組を実施すれば、大規模な、もっと訴求力のあるものになるのではないかと思う。
- ・新たなイベントをできないかということも積極的に考えていきたい。

【金沢市鳥倉経済局長】

- ・今回、石川県で食文化推進本部を立ち上げてもらったことで、金沢・能

- 登・加賀の全県的な食文化の推進への取組を通じて、発信力が強まり、ブランド力も強化され、エリア全体の相乗効果が非常に期待される。
- ・金沢市も、石川県、各市町と積極的に連携して、食文化の推進を盛り上げていきたい。

【徳田副知事】

- ・今回はまず各部局、あるいは金沢市をはじめとする各市町が、現状どう取り組んでいるかをそれぞれに認識することが主眼の目的。
- ・県庁の中ではこれまで、部局連携は行ってきたが、このような推進本部はなく、企画立案の段階から連携して行うことが難しかったのは事実。北陸新幹線の県内全線開業に向けて、食と文化を融合した形で発信をしていくような企画をこの推進本部で考えていきたい。
- ・海外の料理人を石川県で受け入れるといった取組は、一種の国際貢献的な意味合いもあると思うが、金沢市の取組でもヒントが得られたので、拡充できないかと思う。
- ・文化庁が近年、登録無形文化財という概念をつくり、その中に食文化も含まれている。全国的には伝統的な酒造り、生菓子などが登録されているが、石川県も能登から加賀まで特徴ある食文化があるので、市町と連携して候補となるものを探っていくことも大事かと思う。
- ・先ほど金沢市の鳥倉経済局長からもあったが、市はこれまで独自に取り組んできており、せつかくこのような推進本部ができたので、市と連携して全県的に波及させていくような取組もおそらくいろいろありうると思う。金沢市をはじめ市町からも産業政策課に提案をもらい、全県的に波及できる可能性を探っていきたい。

8. 閉会